

事後評価書

事業名	国道260号宿浦バイパス	事業区分	道路事業	室名	道路整備室
事業概要	工期 (下段当初)	平成元年～平成14年	全体事業費 (下段当初)	4,744百万円(負担率:国5.5:県4.5)	
		平成元年～平成14年		4,744百万円(負担率:国5.5:県4.5)	
事業目的及び内容	<p>■当該事業区間の概要と事業着手時の状況</p> <p>一般国道260号は、三重県志摩市阿児町の国道167号を起点として熊野灘沿いを南下し北牟婁郡紀北町に至る延長約11.1kmの路線です。本路線は、熊野灘沿いの集落を連絡する唯一の幹線道路であり、当地域の生活、産業、交流、安全・安心に欠かせない重要な路線です。</p> <p>しかしながら、リアス式海岸特有の急峻な地形条件のため、幅員が狭く、急カーブ、急勾配が連続し、安全で円滑な通行を確保できていませんでした。このため、順次改良整備を進め、平成19年4月時点での改良率は、87%となっています。また、現在、志摩バイパス、木谷拡幅、南島バイパス、錦峠工区の4工区で事業を進めています。</p> <p>本路線のうち、南伊勢町宿浦から志摩市浜島町南張を結ぶ区間については、旧南勢町内の宿田曾漁港を有する宿浦、田曾浦から役場所在地である五ヶ所浦を結ぶ重要な区間となっていますが、幅員狭小の急カーブ、急勾配が連続する未改良区間であり、安全で円滑な通行が確保されていませんでした。また本路線は、救急・救援活動の交通を分担し防災拠点間を連絡する緊急輸送道路の指定を受けていながら、異常気象時事前通行規制区間(時間40mm、連続100mm、H17一部解除)ともなっていました。</p> <p>このため、宿浦バイパス工区として、平成元年にバイパスによる道路改築事業(バイパス延長2.34km)に着手しました。</p> <p>■事業の目的と内容</p> <p>未改良区間の整備を行い、狭隘で屈曲した道路状況を解消し、安全で円滑な通行の確保、交通所要時間の短縮、緊急輸送道路としての機能の確保を目的としていました。また、この整備にともない、地域間の輸送時間の短縮、コストの低減を通じて産業立地条件の改善、地場産業の市場拡大など、地域間の交流と地域の活性化が期待されていたところです。</p> <p>事業区間 南伊勢町宿浦～志摩市浜島町南張 全体事業費 4,744百万円 事業延長 2.34km(旧道延長4.9km) 幅員 車道幅員6.0m 歩道幅員2.0m 全幅員10.0m 主要構造物 宿浦第1トンネル 284m 宿浦第2トンネル 395m 宿浦第3トンネル 231m</p> <p>■その他</p> <p>本事業は、平成11年度に再評価を行っており、平成14年度に完成・供用しています。</p> <p>なお、前回の再評価時点では、算定方法が確立していなかったことから費用対便益比は算定していません。今回算定しました費用便益比は、事業着手した平成元年度から40年間に投入した事業費を基に算定しています。</p> <p>全体事業費の内訳としては、全体事業費4,744百万円の内、用地・補償費が約403百万円となっています。</p>				
1. 事業の効果	<p>○安全で円滑な通行の確保</p> <p>バイパス整備前(昭和63年)の交通量(旧浜島町南張)は約170台/日で、バイパス開通後(平成17年)の交通量は約370台/日に大幅に増加しました(このうち大型車も196台/日から223台/日に増加しています)。費用便益比は「2.2」となり当事業は多大な整備効果を発揮しています。</p> <p>また、平成17年度には異常気象時事前通行規制期間が解除されるなど、緊急輸送道路としての機能向上が図られました。</p> <p>○地域間の交流の促進</p> <p>バイパスの供用前後で交通量は大幅に向上しており、地域間の交流の促進に寄与しているものと考えられます。</p> <p>○地域の活性化</p> <p>宿田曾漁港の水揚げ状況は、平成元年には約250トンであったところが、平成18年には約600トンと、大きく減少しているところでした。</p>				

2. 事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化

本事業区間は、熊野灘沿いの急峻な地形の森林地帯を通過しています。伊勢志摩国立公園第3種特別地域内に位置し、本路線は国立公園園路にも指定されており、環境省との調整を行いながら事業を進めました。整備にあたっては、地形の改変を極力小さくするよう3本のトンネル（総延長910m）を有しているほか、開削して出来た切土法面については、環境面に配慮し厚層基材を吹き付け、緑化を図っています。

3. 事業を巡る社会経済情勢等の変化

平成16年10月に旧浜島町、大王町、志摩町、阿児町、磯部町が合併し志摩市が、平成17年10月に旧南勢町と南島町が合併し南伊勢町となっています。

また、南伊勢町の人口は、平成7年の約2万人から平成17年には約1.7万人に減少しています。志摩市では、平成7年の6.3万人から平成17年には5.8万人に減少しています。

当区間の交通量は、平成元年の約170台/日から平成17年には約370台/日、大型車では196台/日から223台/日と増加しています。

国道260号は、熊野灘沿いの唯一の路線であり、整備により相当の効果が発現されたものと考えられますが、合併した両市町の地域内や、地域間の交流の促進などによる活性化を図るため、残る未改良区間の整備が求められています。

4. 県民の意見

■当該道路に関する県民の皆様の意見を集めるため、次の方法でアンケートを実施しました。

①当該道路の沿道住民：アンケート用紙の配布・回収

②その他の道路利用者：志摩市南張支所、南伊勢町南勢庁舎へのアンケートボックスの設置

■結果の概要

736名から回答を頂いています。内訳としては、沿道住民の方が566人、その他の道路利用者の方が170人です。

●宿浦バイパスの評価

・「非常に満足」、「やや満足」を合わせて71%が満足しています。

その主な理由として、「走行時間短縮」、「走行の快適性」、「渋滞の緩和」、「利便性の向上」を選択しています。

・一方、「非常に不満」、「やや不満」を合わせて9%が不満を持っています。

その主な理由として、「未整備区間が存在する」、「完成までに14年間を要している」を選択しています。

・宿浦バイパスの整備にともない、通行に「国道260号を利用するようになった」が41%あり、国道の利用率は、25%から64%と大幅に増加しています。また、利用目的は、買い物24%、業務16%、通勤14%、通院13%などで、国道260号が地域の生活・産業になくてはならないものであることが伺えます。

・その他、未改良区間であり現在整備を進めている南伊勢町木谷付近が未整備であることに対する不満が616件（84%）、「宿浦～木谷区間の整備をして欲しい」との意見が93件などの意見を頂いており、当地域の社会・経済生活を支える基盤としての当路線整備への期待が感じられます。

5. 今後の課題等

■残る未改良区間の整備

国道260号の南伊勢町田曾浦から役場所在地である五ヶ所浦区間では、志摩市南張から南伊勢町木谷間が未整備となっており、安全で円滑な通行の支障となっています。今回行ったアンケート結果でも84%の方が不満を訴える状況でもあり、未改良区間の早期の整備が求められています。事業期間の短縮や、早期効果発現、コスト縮減などに配慮しつつ、未整備区間の整備推進が必要であると考えています。